

がんセンターたより



新しいがんセンター 部門紹介 (第2回)

神奈川県立がんセンター部門紹介第2回目は、検査科(生理、血液、病理)放射線診断技術科、放射線治療技術科、薬剤科、放射線治療品質保証室、栄養管理科、リハビリテーション科の7部門をご紹介します。

検査科

* 生理検査室 *

生理検査室は、主に心肺機能検査と各種超音波検査・治療を臨床各科医師と6名の技師で行っています。新棟移転という歴史的イベントでは、科員の総力を結集し、旧病院診療終了まで業務を続けながら、限られた時間内で業務開始に無事こぎつけることができました。また、旧病院で二ヶ所に分かれていた当検査室も一ヶ所に集約でき、検査や治療を行う最適環境が整ったことは特筆すべきことです。

* 血液形態検査室 *

血液検査では、末梢血や骨髓血の形態学的検査やフローサイトメトリー法による細胞表面抗原の検出、遺伝子検査(FISH法)などを行っており、血液疾患の診断や造血幹細胞移植などに不可欠な検査を行っています。新がんセンター移転に伴いシステムが一新され、手書きの伝票や報告書がなくなり、業務がスムーズになりました。また、出血時間の検査を採血室で行うようになり、患者さんの移動の負担も減りました。

* 病理検査室 *

病理検査室は手術や生検の組織学的検査、細胞診検査及び病理解剖が主な業務で、病理診断科の医師と連携し業務を行っています。

新病院への移転によって、手術室の隣に検査室が配置されたことにより、検体の搬送がスムーズになりました。また、設備が充実し効率化が図られました。今後、手術件数の増加やオーダーメイド治療の普及に伴い検査数の増加が予想されます。

放射線診断技術科

放射線診断技術科は病院棟1階と地下1階にありX線と放射線検査を担当する部門です。現在放射線技師19名と委託受付4名で業務を実施しています。新棟建設中の出来事ですが同時進行で新規設置する放射線機器も搬入を行いました。ここで問題になったのは工事で発生する粉じんとコンクリートから放出される湿気でした。建物内部の湿度はなんと90%以上あり、高額な医療機器が湿気で結露しショートして壊れてしまう恐れがあったのです。対策は冷房除湿空調でさらに除湿機を臨時設置しフル稼働させましたし、粉じんはできるだけ掛物をして侵入を防ぐことで対応しました。

次に旧病院の装置を新病院に移動するのですが、これらの装置類は毎日の診療に使用していて一度に移動する事が不可能で、順番に最短期間で作業するしかないのです。ここでも問題が発生しました。それは移動が完了してから使用許可の調査を保健所をお願いするのですが、1台ずつ何回も調査に来られない為に複数台まとめて調査します。そのため先に設置完了した装置は許可が出るまで使用できず、予約に支障が発生するなど移転後も移設に関わる使用許可や許認可については頭痛の種でしたが、まさに何とか乗り切れたといった状況でありました。



放射線治療技術科

放射線治療技術科は病院棟地下1階にあり、放射線治療に関する業務を行っています。

新病院への引越しに際して苦労したところは、患者さんをできるだけ引越し直前まで治療を行い、新病院では開院直後から新しい放射線治療機器で治療ができるようにするための調整・準備に苦労しました。

良かった点は、放射線治療装置が2台から4台に増え、がんセンターにふさわしい放射線治療機器が導入されたことと、今後重粒子線治療も含めて患者さんにより良い治療の選択肢が増えたことが良かった点です。

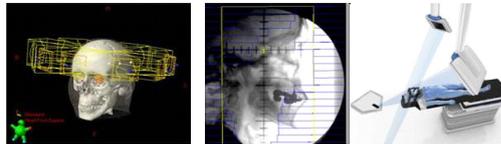
放射線治療部門スタッフは医師・看護師・放射線技師等いろいろな職種の人達がチームとなって放射線治療に当たっています。

高精度医療用リニアック装置

当センターでは、最新型線形加速器システム
(米国バリアン社製：Trilogy)を設置しています。



当センターの装置は、3次元立体画像での治療計画を可能にしており60対のマルチリーフコリメータで限局的な照射が可能です。



装置には診断用X線装置であるOBI（オンボード・イメージャー）とExacTrac X-Rayを搭載し、画像誘導放射線治療機能（IGRT）を効率性高く行うことができ、高精度な放射線治療技法である強度変調照射（IMRT）が可能な最先端のシステムです。

薬剤科

薬剤科は病院棟1階に薬局窓口と薬局相談室、地下1階に調剤室、製剤室、注射薬ミキシング室などがあります。

*引越しの際に苦労した点

薬の調剤を止める事ができないため、約1200種類の薬を患者さんの移動のタイミングにあわせて急いで梱包し、新病院に着いたら、すぐに使えるよう準備したこと。

*引越しして良かった点

薬局内が広くなったこと、アンプルピッカーの導入で注射薬の個人別取り揃えが合理的になったこと。

薬剤科の業務は、調剤業務、注射薬調剤業務に加え服薬指導、医薬品情報提供等を行なっています。感染対策チーム（ICT）、栄養サポートチーム（NST）、緩和ケアチームなどのチーム医療にも参加しています。

放射線治療品質保証室

放射線治療品質保証室は平成22年度に新設された部署で、病院の組織図上では医療管理部に所属しています。現在、当室には私のほかに専任の医学物理士2名が配属されています。おもな業務内容は通常の放射線治療（外部照射、小線源治療）から高精度放射線治療におけるリニアック装置および治療計画装置の管理や、作成された治療計画の物理的、技術的な妥当性の確認および検証です。医学物理士は放射線治療の現場ではあまり表舞台には登場しませんが、文字通りバックボーンを支えているスタッフであるといえます。

昨年の新病院移転の際には、新たに導入されたりニアックで安全に高精度な治療を開院当初から行えるようスタッフ一丸となって鋭意業務に励みました。転院前後には一時的に放射線治療患者数は減じましたが、その後みられたV字回復には当室スタッフの努力も大きく寄与していると自負しております。

今後も常に最新の知識や技術を学ぶことを怠らず、国内外の学会活動にも積極的に参加し、トップレベルの治療を安全に提供していけるように努めたいと考えています。

栄養管理科

栄養管理科は主に食事提供や栄養相談を行っています。新病院の食事は、調理後急冷し0～3℃で保管、温菜は配膳直前に病棟で再加熱し（75℃以上）提供しています。移転前は、食器の選定、入院中食べたいと思った料理調査と結果を基に美味しく食べられる単品メニュー（みなと応援食）の開発、食事オーダーシステムの構築など移転後、安全に適温で提供できるよう準備に多くの時間を使いました。今後もおいしい給食の適宜改善に努めます。



病棟配膳室で温かい料理は再加熱(左側)冷たい料理は3℃を保ち(右側)配膳の準備をします。

みなと応援食

巻きずし、ラーメン、ナゲットなど治療中に摂取が落ちた時の対応として多数の単品メニューを用意しています。



リハビリテーション科

リハビリテーション部門は様々な方からご支援いただき、今年度よりリハビリテーション科を標榜するに至りました。リハビリ科専任医師設定・作業療法士入職により、施設基準も向上しました。理学療法士は移動動作訓練および呼吸訓練を、作業療法士は日常生活動作訓練および心理支持的治療を中心に担当し、今後はコミュニケーション・摂食嚥下障害を扱う言語聴覚士の充実を図りたいと考えております。

* 呼吸筋力の測定



* 麻痺筋へのバイオフィードバック療法



講演会のご報告

平成25年度 重粒子講演会について



平成26年3月1日(土) 関内ホール大ホール(横浜市中区)において、「平成25年度 最先端をいく日本の重粒子線治療」(主催:神奈川県立がんセンター、後援:「がん医療と患者・家族を支援する

会」)を行いました。

当センターでは、平成27年度中の治療開始を目指し、重粒子線治療施設(「i-ROCK」)の整備を進めており、集患に向けての普及・啓発活動の一環として、群馬大学重粒子医学研究センターの大野達也先生、九州国際重粒子線がん治療センターの篠藤誠先生、放射線医学総合研究所重粒子医科学センターの辻比呂志先生、及び兵庫県立粒子線医療センターの不破信和先生をお招きして、開催致しました。

当日は、中山治彦総合整備推進部長兼副院長から平成25年11月に整備した新がんセンターや整備中の重粒子線治療施設「i-ROCK」について紹介した後、辻先生から「重粒子線治療について(放医研の取り組み)」と題した基調講演を行っていただきました。講演では、重粒子線治療の特徴やこれまでの治療成果、最新の治療技術について説明いただきました。基調講演後、治療にかかる費用や適応、手術・抗がん剤との併用の可否、陽子線治療との違いといった参加者の方々から事前に募集した質問について、中山優子放射線腫瘍科部長兼重粒子線治療施設整備室長によるコーディネイトのもと、お招きした先生方によるパネル討論を行いました。各先生方が丁寧に回答されており、一般の方にとっても大変分かりやすい内容でした。

参加者のアンケート結果においても、ほとんどの方からわかりやすく良かったとの感想をいただいたほか、

「保険適用に早くなって欲しい」「一日も早く治療開始して欲しい」などの内容が多くありました。

当日は約200名を越える方々にご参加いただき、アンケート結果から県民の重粒子線治療に対する大きな期待を感じました。重粒子治療施設整備室では、治療開始に向けて施設の整備に取り組むと共に、今後も医療従事者や県民の方々に対する普及・啓発活動に取り組んでまいります。(総合整備推進部 篠原昇太)

第27回 県民のための公開講演会が 開催されました



さる4月16日(水) 二俣川の旭区民文化センター サンハート・ホールで科学技術週間参加行事の公開講演会「抗がん剤によるがん治療：その現在と未来」が開催されました。

臨床研究所の山田研究員には「理想の抗がん剤を求めて」の題で、乳腺内分泌外科の清水部長には「乳がんの抗がん剤治療」の題で、消化器外科(大腸)の塩澤部長には「大腸がんの抗がん剤治療」の題で、腫瘍内科の酒井部長には「多発性骨髄腫に対するがん薬物療法」の題でそれぞれ講演をお願いいたしました。

講演会に来場された方は184人でした。アンケートの結果を拝見し、およそ8割の方から好評をいただき、ほっとするとともに、来場者の皆様が抗がん剤による治療に大きな関心と期待を持っておられることを実感させていただきました。ご来場下さった皆様、演者の先生方と赤池総長をはじめご協力をいただいた関係者の方々に感謝いたします。また、今後もこのような講演会を通して県民の皆様ががんの最新情報を的確にお伝えしていけるよう臨床研究所も努力して参ります。

(臨床研究所 主任研究員 菊地慶司)

漢方サポートセンターを 開設しました

本年度から漢方サポートセンターを開設しました。漢方は古代中国医学由来の日本伝統医学です。抗がん生薬によるがん治療は古代より行なわれてきましたが、がんを治癒させるにいたっておらず、漢方単独でがんを治すことは残念ながらできません。しかし、漢方には現代医学に欠けている考え方や治療法が有り、種々の症状に別角度からの対応ができますので、遠慮なくご相談ください。

これまでの診療実績は以下のとおりです。

癌証（気虚、瘀血、水毒等）の改善、内分泌治療による更年期症候群（乳がん、卵巣がんなど）、リンパ浮腫（乳がん、子宮がん等）、化学療法後末梢神経障害、分子標的薬等による皮膚障害、放射線性皮膚炎、脳浮腫、がん性疼痛。
（漢方サポートセンター兼東洋医学科部長 林明宗）



次のいずれかの方法で受診していただいています。

1. 紹介状をもつての受診

主治医の紹介状を受け取った患者さんから、下記へ連絡していただき、受診の予約をして来院していただく方法。

2. 紹介状なしでの受診

当院の「漢方治療同意書」に主治医のサインをいただいて受診していただく方法。

（特定療養費がかかります）

いずれも、漢方サポート外来では漢方薬のみの対応です。詳細は、当院公式ホームページをご参照ください。

<http://kcch.kanagawa-pho.jp/>

お問い合わせ先

患者支援室（漢方専用）

045-520-2228

（平日9時 17時）

平成26年度 がん臨床講座

神奈川県立がんセンターでは、「がん臨床講座」を毎週開催しています。この講座は外部の医療関係者にも開かれており、どなたでもご参加いただけます。なお、ご参加を希望される場合は、事前にご連絡ください。

開講日 毎週水曜日 18時30分から19時30分
会場 神奈川県立がんセンター
管理研究棟5階 大会議室
連絡先及び問い合わせ先
神奈川県立がんセンター 企画調査室
電話 045-520-2267（直通）

日付	曜日	授業名	所属	講師名 (敬称略)
平成26年				
4月23日	水	放射線治療の基礎	放射線腫瘍科	野中 哲生
30日	水	がんセンターにおける病理診断	病理診断科	横瀬 智之
5月7日	水	骨髄腫	腫瘍内科	酒井 リカ
14日	水	がん治療と口腔管理	歯科口腔外科	光永 幸代
21日	水	肺がん外科治療	呼吸器外科	伊藤 宏之
28日	水	白血病	血液内科	田中 正嗣
6月4日	水	脳腫瘍	脳神経外科	佐藤 秀光
11日	水	肝臓がん	消化器内科	森本 学
18日	水	頭頸部腫瘍	頭頸部外科	古川 まどか
25日	水	RNAによるがんの診断と治療	臨床研究所	大津 敬
7月2日	水	がんゲノム概論	臨床研究所	宮城 洋平
夏休み休暇				
9月17日	水	肺がん	呼吸器内科	山田 耕三
24日	水	胃がん	消化器内科	中山 昇典
10月1日	水	食道がん	消化器外科	尾形 高士
8日	水	骨軟部腫瘍	骨軟部腫瘍外科	竹山 昌伸
15日	水	がん免疫治療の現状	免疫療法科	和田 聡
22日	水	胃がんのESD	消化器内科	井口 靖弘
29日	水	放射線診断	放射線診断・IVR科	永田 延江
11月5日	水	精巣腫瘍	泌尿器科	岸田 健
12日	水	がんの漢方サポート	東洋医学科	林 明宗
19日	水	卵巣がん	婦人科	小野瀬 亮
26日	水	子宮頸がん検診 ワクチン	婦人科	加藤 久盛
12月3日	水	大腸がん	消化器外科	塩澤 学
10日	水	胆膵がん	消化器内科	上野 誠
17日	水	前立腺がん	泌尿器科	河合 正記
冬休み休暇				
平成27年				
1月14日	水	緩和ケア	緩和ケア内科	太田 周平
21日	水	甲状腺未分化がん	乳腺内分泌外科	吉田 明
28日	水	皮膚科	皮膚科	山本 晃三
2月4日	水	乳がん	乳腺内分泌外科	清水 哲
18日	水	循環器	循環器内科	上野 淳
25日	水	薬剤科	薬剤科	薬剤科
3月4日	水	予備日		
11日	水	予備日		
18日	水	予備日		
26年度は以上31講義 以下の講義は平成27年度以降とする。 基礎編 第I・II・III相臨床試験、疫学、統計、psychooncology 各1講義 臨床編 oncology emergency、小児腫瘍 各1講義				

就任のご挨拶



研究所長に就任して

臨床研究所長 今井 浩三

神奈川県立病院機構理事長の土屋了介先生からお招きいただき、このたびがんセンター臨床研究所の所長を拝命いたしました今井浩三です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は、元々内科医を志し、1970年代からがんの患者さんを大勢診て参りました。今とは異なり、がんには全く歯が立たず、これではいけないと考え、アメリカのNIH国際フェロ・シップに応募して、1978年に研究の世界に入りました。その頃、新たな技術として、細胞融合法によるモノクローナル抗体の作製が可能となり、その後、多くのがん細胞に対して、各種の抗体を取得いたしました。1985年には、その技法でノーベル賞を獲得したイギリスケンブリッジのC. Milstein博士のもとにも留学し、Bispecific antibodyにも挑戦いたしました。日本の豊島久真男先生らが発見されたerbB2遺伝子産物に対してもいち早くキメラ型のモノクローナル抗体の作製に成功し、某製薬会社にこれを上市するようお願いしました。しかし、この件はロッシュ社からの乳がんに対する類似の抗体の登場により、実現しませんでした。その後も、いくつかの有力と思われる抗体をとりましたが、当時の日本企業にも、国にも、そのような方向性に対する先見性は少なかったように思います。

2000年以後、ヒトゲノムが明らかにされ、分子生物学的手法が確立して、臨床の教室もこの技術を用いた研究に参入いたしました。また、国も「橋渡し研究」の重要性を認識し、全国の5カ所（現在7カ所）の大学に拠点を築き、約10年が経ちます。私も内科教授から、学長・理事長（札幌医科大学）という職に就き、教育・研究に加えて、運営面での経験をjする機会に恵まれました。2010年より、東京大学医科学研究所の病院長に就任しましたが、札幌医大時代から、計7年間、「橋渡し研究」に中心的に携われたことは、私の研究面での貴重な財産になっています。日本経済の崩壊後の、「失われた25年」の間に、日本の開発力も低下し、医薬品等の貿易赤字も年々増加し、近年は3兆円に達しようとしています。

しかし、最近ようやくこれを何とかしようという機運がでて参りました。しかも、神奈川県を国がいち早く特区化したことにより、ライフサイエンス面での復興が期待されます。日本人の死因の首位にある「がん」を治療し、予防することにより、神奈川県民のみならず、国全体、あるいは高齢化を迎える世界の多くの国に貢献することができます。

当がんセンター臨床研究所には、病院と協力して集積してきた患者さんの貴重ながん組織などの試料が多くそろっており、極めて迅速に研究成果を臨床に結び

つける、我が国トップクラスの強力な基盤があります。また、新築なった病院で闘病されている患者さんの強い要望が間近にあります。このような二つの大きな特徴を活用して、研究所は高い目標を掲げ、先進的研究・患者さんに役立つ研究に邁進いたします。既に、当研究所の研究会での発表の中に、いくつかの新しい「橋渡し研究シーズ」があります。がんの早期診断と革新的な治療、そして予防のために役に立つ研究の芽が出つつあります。これを臨床に繋げるため、その先頭に立って努力を続けたいと考えます。皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。



ごあいさつ

よら
副看護局長 與良登美代

この4月1日に神奈川県立病院機構本部より、異動してまいりました、副看護局長の與良登美代です。神奈川県生まれの神奈川県育ちで神奈川県立病院に務め三十数年です。この間、臨床と卒後継続教育の場にほぼ半分ずつおりました。臨床では、産科以外のほぼ全科を経験し、教育ではクリティカルケア領域や、現任看護師の教育に専門性を置きながら、県立病院の看護の質向上を目指してまいりました。

がんセンターは、新しく綺麗な建物になり、さらにもうすぐ、期待の重粒子線治療施設（i-ROCK）も出来上がります。先端治療に、漢方治療、ワクチンセンター、緩和ケアの推進等々、次々と新たな取り組みに向かう、エネルギーに満ちたがんセンターに身を置くことになり、期待と同時に責任の重みに身が引き締まる思いです。これまでの経験を最大限活かして、より良い看護の提供に頑張りたいと思います。

がんセンター看護局は、「その人らしさを大切にしたい、最良の看護の提供」使命とし、誰にとってもわかりやすい看護を目標に努力しております。「その人らしさを大切にする」という姿勢は、看護の本質であり、人として求められる重要な態度でもあると思います。患者さんやご家族への看護として、このことを大切にするのは言うまでもありませんが、職員に対する態度も同様のことと感じております。

先日、国際宇宙ステーションでの長期滞在を終了した若田光一宇宙飛行士の「和のリーダーシップ」のニュースがありました。日本人初の船長ということもありますが、和を重視したリーダーシップにより、チームとして最大の力が発揮され、偉大な仕事をやり遂げたというものです。地上では難しい問題を抱える国同士の乗組員たちでしたが、日々の問題解決に取り組むと同時に、細やかな配慮や声かけ、全員で食事をするなど、和やかな雰囲気づくりを心がけたそうです。

私達職員同士もこれに習い、互に尊重し合いながら、良い人間関係づくり信頼関係づくりを心がけ、がんセンター号として最高の仕事ができるよう精一杯頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新任 紹介

幹部職員



臨床研究所
所 長
今井 浩三



副看護局長
與良 登美代

医療局
(医師)



漢方サポートセ
ンター兼東洋医
学科 部 長
林 明宗

職員の異動がありましたのでご
紹介します。紙面の都合上、採用・
就任された幹部職員、医師、臨床
研究所学部長、検査科長、看護科
長に限らせていただきました。



脳神経外科
部 長
佐藤 秀光



血液内科
医 長
田中 正嗣



消化器外科
医 長
金澤 周



消化器外科
医 長
青山 徹



皮膚科
医 長
山本 晃三



泌尿器科
医 長
河合 正記



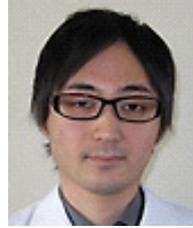
放射線診断・
IVR科
医 長
堀川 歩



免疫療法科
医 長
和田 聡



呼吸器外科
医 師
古本 秀行



呼吸器外科
医 師
伊坂 哲哉



血液内科
医 師
青木 淳



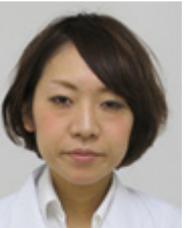
血液内科
医 師
山本 恵理



腫瘍内科
医 師
石山 泰史



消化器内科
医 師
山田 博昭



消化器内科
医 師
小林 楨



消化器外科
医 師
林 茂也



消化器外科
医 師
村川 正明



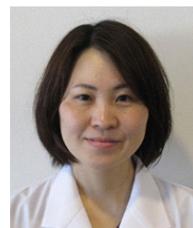
消化器外科
医 師
山奥 公一朗



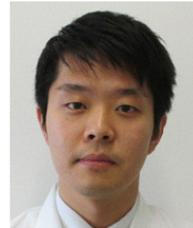
脳神経外科
医 師
池西 優理子



頭頸部外科
医 師
堀 由希子



乳腺内分泌外科
医 師
小島いずみ



泌尿器科
医 師
橋爪 章仁



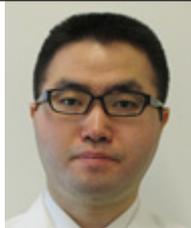
骨軟部腫瘍外科
医 師
山口 泰輝



放射線診断・
IVR科
医 師
平井 千裕



放射線診断・IVR科
医師
鈴木 聡子



放射線腫瘍科
医師
早川 豊和



緩和ケア内科
医師
川田 和弘



歯科口腔外科
医師
光永 幸代



がん生物学部
部長
越川 直彦



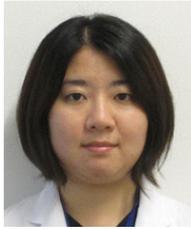
検査科
科長
小林 昭一



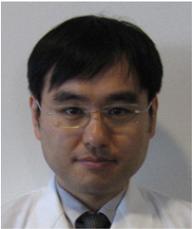
看護科長
岸 ひろみ



看護科長
砂田 麻奈美



医師
間邊 早紀



医師
永田 仁



医師
松崎 智彦



医師
今井 一章



医師
瀬上 顕貴

検査データシリーズ

検査データについて



今回で検査データシリーズもいよいよ最終となります。最後に、尿一般検査、尿沈査検査を紹介いたします。参考にして下さい。

尿一般検査、尿沈査検査

基準範囲については神奈川県立がんセンターで用いているものです。検査法により他院のものとは一致しない場合もありますのでご承知おきください。

なお神奈川県立がんセンターのホームページでも検査データを紹介しておりますので是非ご覧になって下さい。(検査科長 小林昭一)

略称	項目名	当院基準範囲	単位	解説
○尿一般検査○				
	尿比重	1.002~1.030	なし	腎臓の働きや脱水の状態を調べる検査です。水分摂取や発汗などによって変動します。
	pH	5.0~8.0	なし	
	尿蛋白	(-)		主に腎臓の病気で陽性となります。運動や発熱などでも陽性になることがあります。
	尿糖	(-)		尿にブドウ糖が出ているかを調べます。血糖値が高くなりすぎたときや、腎臓の機能異常で高値となります。糖尿病の発見に役立ちます。
	ケトン体	(-)		糖・脂質代謝の異常で高値となります。激しい運動や絶食でも高くなります。
	潜血	(-)		尿に血液が混入しているかを調べます。腎臓、尿管、膀胱などが傷つくと陽性になります。
	ウロビリノーゲン	0.1		肝臓の働きが悪くなると高値となります。
	ビリルビン	(-)		肝臓の機能異常で高値となります。
	亜硝酸塩	(-)		膀胱や尿道に細菌感染があるかを調べます。細菌が増えると陽性になります。
	白血球反応	(-)		尿に白血球が混入しているかを調べます。細菌感染があると、陽性になることがあります。
○尿沈査検査○				
	尿沈査			尿に含まれる有形成分を見て、尿路や腎臓に異常があるかを調べます。

スキンケア外来（ストーマ外来）について



皮膚・排泄ケア認定看護師
関 宣明 舛田佳子 平澤真弓

昨年の当院におけるストーマ造設件数は88件で、その内訳は、小腸ストーマ44件、大腸ストーマ32件、尿路ストーマ12件でした。直腸がんの手術方式の変化により、一時的な小腸ストーマ造設件数が増加しており、約半年程度で閉鎖の手術を行います。小腸ストーマは消化酵素を含む水様～泥状便が、1日1リットル前後排泄します。そのため、皮膚トラブルの発生が多くなり、スキンケア外来のニーズが高くなっています。患者さんのニーズに対応するように火曜日以外の全ての曜日に外来を行っています。

スキンケア外来では、装具やアクセサリーの選択、骨盤底筋体操、抗がん剤の使用によるスキンケア指導、褥瘡または創傷患者のケア、などを精神面のケアも合わせて行っています。



ボランティア会ランパスによる患者さんのための 7月・8月木曜ミニコンサート予定表

時間：午後1:30～2:00（約30分間）

7月 3日	ソプラノ	齋藤範子
7月10日	シャンソン	美山容子
7月17日	ピアノ	坂本里沙子
7月24日	ピアノ	小林朋子
7月31日	声楽	中島光恵
8月 7日	ピアノ・フルート	中畑仁美
8月14日	お休み	
8月21日	声楽	中野亜維里
	ピアノ	青山留美子
8月28日	声楽	江口正之



平成25年度 2月・3月・平成26年度 4月・5月 1日平均患者数

（単位：人）

区分	2月	3月	平成26年度 4月	5月
入院	356.6	349.1	345.3	337.2
外来	799.0	806.3	787.3	841.4

編集後記

本号は連載企画である新病院の部門紹介と4月に着任された新しい仲間の紹介を中心にお届けしました。今年度より神奈川県立病院機構の新理事長には土屋了介氏が就任され、黒岩知事同様にスピード感を持って、様々な改革が始まろうとしています。当院においても、漢方サポートセンター、緩和ケアセンター、がんワクチンセンターが発足し、新たな器への人員配置も着々と進んでいます。新システムをどのように機能させるかは職員一人一人の高い意識と技量次第です。今年度も一緒に頑張りましょう。（企画情報部長 金森平和）

編集・発行：神奈川県立がんセンター 企画情報部 企画調査室

〒241 8515 横浜市旭区中尾2-3-2

TEL 045-520-2222（内線2510）

<http://kcch.kanagawa-pho.jp/>